

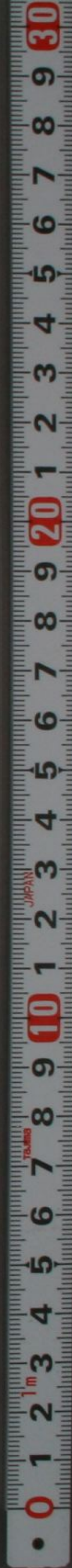


44
A.1008



倫敦工耀新聞
 今日ノ不景氣ハ永續スベキ歟
 有名ナル佛國ノ經濟學者レロイ、ビエリ、ユール氏ハ今日世間一
 般高貴ノ不景氣ナル理由ニ付テ詳カニ其成見ヲ同陳セリ又
 ド、イバーエ氏ニ之ニ次テ一層其理ヲ擴充辯論セリ其說固ヨリ
 一蹶ノ疑同ヲ各ルベキ然テヤニ非ヤレモ吾輩ノ爲ニハ最モ有益ナル
 議論ト云フ可レ今ヤ耳ヲ傾ケテ輿論ヲ取クニ今日ノ不景氣
 ハ恰ニ千八百四十七年同廿七年同六十六年ノ如クニ投機商賣
 ノ度ヲ失フタルト製造ノ需用ニ過ヤリトニ因テ賣買ノ瓦血一
 時凝滞シタルヨリ起リタルモノナレバ幾何モテ再ビ前日ノ盛
 況ニ回復スルヲ望ムトハ通常論者ノ喋々唱和スル所ナリ然レ
 石西氏ノ着眼スル所ハ全ク之ト反シ今日ノ不景氣ハ是レ三十年
 以降前代表曾有ノ繁昌ヲ極メテ南賣世界ノ漸ク將ニ變遷シ

大正十一年四月
 限信時郵寄贈



吾人ノ富貴ヲ得ルハ従前ニ比スレバ稍ニ難ク幸運ニ會スルハ
 是迄ニ比スレバ稍ニ稀ナル時期ノ將ニ至ラントスル徴候アリト
 見ルガ如シ專ニ如キ不祥ノ言論ハ國ヨリ吾輩ハ固ク喜
 ハザル所ナレバ然モ其引證シ憑拠トスルハ詳明確實ニシテ敢テ
 衆空ノ放言ニ非ザルヲ以テ讀者頃々意ヲ留メテ細ク之ヲ
 思惟スルハ然レバ之ヲ思惟スルニハ先クキ一今日吾輩ノ平生
 先覺シタル此繁昌ハ實ニ是レ近年發現シタル同類以來未曾有
 景象ニシテ其原因ハ只一時ノモノタルヲ以テ記セザルハ可ラス前
 事相チスレバ小説ヲ讀ミタ者ハ必ラズ其第一改革法ノ時ニ當
 テ人民一般貪婪ニ迫ラントスル恐アリ義高ノ割取ニ寄リレテ知
 ル可シ其後穀物法廢止ノ議論起リレ時ニ其勢甚熾ニシテ之
 振極スルハ能ハザリシハ職トシテ當時日僱ノ活計ハ得ル極メ
 ヲ艱難トシ事情ノナルニ因テリ方ニ愛爾蘭及蘇格蘭ニ於テ織

籠ノ禍害實ニ甚ダレカトシ其後幾何モナリ佛朗西ニテ路易非立
 身王ノ廢位ニ路ヲ十六世紀絶難ノ如ク當時巴理府ノ大ニ不景氣ナリレ
 ニ源ヒリ十八百四十八年歐洲一般ノ擾亂ニホリ當時ノ不景氣ガ
 幾許ハ其原因ヲ爲シタルナリ顧リレテ此國(英南)ノ景況ヲ想
 フニ今テニフ官吏ニ年々收入ノ額ノ次オニ増加スルヲ常トスルト雖
 ロハルト、ピール氏ガ在職間ニ我國ノ會計法ヲ改革セシ迄ハ代々ノ
 大藏師ノ裁シモ皆歳費ヲ償フベク充分ノ歳入ヲ課收スルノ難キ
 ニ困苦セザルハ莫クシシピール氏ノ改革後ト雖モ多年ノ間ハ歳
 入ノ増加スル其度甚ダ遅緩アリシ十八百四十二年ヨリ五十二年マデ十一
 年ノ間ハ収税ノ率ニ倍價ヲ定メタル人民ノ所有ハ毎年只百分一ノ
 三分一ヲ増殖セリ然レニ十八百五十二年ヨリ六十二年マデハ其増
 殖百分三ヲ割合テリ即チ十年前ニ比スレバ九倍ノ増加アリ又
 十八百六十三年ヨリ八十年マデハ百分四ノ割合ニ昇レリ其進歩ノ

速カナル實ニ盛ク可シ今若シ試ミ二百年前ニ溯テ當時ノ光景
 リ陳述セバ歲入ノ類ハ多年同増成テカリシテ容易ニ知ル
 得可シト雖モ吾輩ハ右ニ總説シテモ教事ヲ以テ三十年來ノ繁
 昌ハ全ク稀有ノモノタルヲ證スルニ十分ナリト信ス
 叔ノ斯ノ如キ稀有ノ繁昌ヲ未タシタル其原因ハ一ニテ足ラザレバ
 其中殊ニ著明ナル者ハ左ノ二事ニ過ギズ其一當百年同ニ種々
 機上ノ大發明アリシテ其一カリフォルニア及オーストラリアニ於
 金礦ノ發見アリレテ其國ニテオーストリアノ大戦以來久シク昌
 平ノ續キレテミシヒロノ廣原大平洋邊ノ地方南亞非利加オースト
 リアニシテシロノ東ニシテ等々殖民セシテ及那日本等ノ開港セシテ
 此國ニ自由貿易ノ始マリシテ歐洲大陸一般ニ商賣ノ便利
 ニナリシテ等ノ教事モ幾分ノ其源因ヲ爲シタルヲ明カナリ
 然レモ右ノ二事ニ其中ノ魁タルモノナリ 機上ノ發明中ニテ蒸

氣ヲ以テ船車及製造機用ノ發動力ニ適用シタルハ物ノ以テ喻
 フベカラザル 強盛ノ改進力ヲ發生シタルナリ 鐵道ノ爲ニ世上
 エズル廣大ノ利益ハ三尺ノ童子モ猶能ク之ヲ知ルガ故ニ吾輩
 ハ今更ニ之ヲ教フルヲ要セズ唯其未ダ著シク人意ニ觸レザルモ
 ニニテ奉テ之ヲ云フニトス夫レ今日ノ如シ盛大ニ製造ヲ
 行フニハ無數ノ人民僅々繁華ノ二地ニ會集セザル可カラズ是ニ
 大ニ鐵道ノ用欠クベカラザルト成ル其一例ヲ奉テレニ倫敦
 ノ如キハ蒸氣ノ便利微リセバ鮮肉ニ只富貴者專有ノ珍羞トシ
 且ツ三冬ノ間ハ富貴ノ人ト雖モ多クハ得ルヲ能ハザルナリ然レモ
 蒸氣鐵道ノ依テ吾輩日用穀類ノ肉類ハ唯英蘭蘇格蘭及日耳
 曼海上ノ諸國ヨリノミテテウニ萬里ヲ隔ルル亞米利加合衆國及加
 泰院ノ地方ヨリ續々之ヲ得又穀類ハ印度濠洲及南亞米利
 加ノ直里ノ如キ海路渺茫タル遠國ヨリ自由ニ之ヲ採ルルナリ

得故ニ英國ノ繁昌ハ世界ノ邊隅ニテ其餘澤ヲ被ルニ至ル且ツ
 愛爾蘭ノ貧民等飢饉疫病ノ時ニハ亞米利加ハ移住シテ其土
 ヲ全クスルヲ得又昔時運送ノ不便ナル頃ニハ商人ハ巨額ノ資
 本ヲ要シタルニ今ハ復シ之ヲ要セザレバ資本ノ運轉甚カキナリ
 叔子又機械ノ發明ニ因テセノ先景ヲ改進スル其大ナルホイロ
 子ハ打綿機ヲ以テ見ルバ此機械ノ發明ノ爲ニミン、ビー
 廣源ノ殖民大ニ其期ヲ速クシ又ランカスレーアノ木綿製造
 ニ多クハ之ガ爲ニ起リシナリ然レニ鐵道汽船ノアルニ非ラザレバ
 之レ雖モ亦十分ニ切テ奏スルアウ得ザリシテ今ニ而シテローイ、
 ヒエーリエト及ド、ラゴリエノ兩學者ハ蓋シ是等ノ諸物モ今ハ殆ド其改
 進力ヲ費シ盡シタルト鑑定スルナリ汽車汽船ノ萬國ヲ比
 隣ノ如クニ往復スルハ向後ト雖モ猶モ休止スルヲ莫ルベシ然レモ
 其ハ爲ニ各國ノ位地ハ變換スルヲ有ラザル可シ製造機械ニ

蒸氣ヲ使用スルハ向後ト雖モ猶モ休止スルヲ莫ル可シ然レモ其
 於處ニ資本ノ製産力俄然百倍シ物品ノ製造費總然什一ニテ
 心ヲ有シザルベシ畢竟今日ノ景況ノ却步セザルノニテ更ニ世
 休ノ一變スルヲ有ラザル可シ勿論今後ト於テモ是迄ノ大發明
 ノ偶然出来スルヲ有モ計リ難クレバ此ハ是レ吾輩ノ知ルヲ能ハ
 りル所ナリ吾輩ハ只從來ノ景況ヲ將テ向後ヲ推量スルノハ從
 來ノ景況ヲ將テ推量スルハ向後ト於テ今日ノ景象ヲ變換
 スル如キ大發明ノ出来スルキヲ見ズ故ニ此論ハ向後二三十年
 間ニハ斯ノ如キ大發明ノ有ルバカラスト假定シタル以上ノヲナ
 ルヲ知ラザル可カラズ然レモ全体此論ハ今日ニハ太ク早過タリト
 思フ假レ向後此論ノ果シテ効ヲ顯ハス時アルモ知ル可カラズト
 雖モ今日ハ未ダ其時ノ至ラズルニ非ザルナリ

製鉄道ノ設置蓋瓦ノ使用ナリシレテ是等ノ諸工事ハ今
殆ンド其前行。休止セリ。何トナレバ富有ノ國ニ於テハ利益ノ有
リ限リハ鉄道ノ設置ニ依リテハ其利ハ所ナク朽ニ疲弊シタレ
ニ於テハ辱ニ失敗ナリレガ爲ニ大ニ其信用ヲ傷害シレバ將
大工事ヲ起スル能ハズナリ。各此ノ失敗ニ因テ英蘭
佛蘭西阿蘭院白耳教等ノ金主ニ復テ外國ノ工事ニ本入スル
危ハ寧。利ノ薄ヲシテ業ノ安全ナルヲ希フコト。皆其ノ農
業ヲ盛ニスルベシト然レバ其熟ニ實際ヲ視察スルニシテ
氏ノ言ヲ如ク鉄道ノ設テ既ニ全佛シタル所ニ於テ英白ノ外
復化ニテラザルベシ若シ今後數年ノ間干戈ノ争亂ナレバ
再ニ鉄道建築ニ從事スルハ可レ
又此數島ノオニノ原因ニカリテ及オーストラリアノ金礦
産見ニシテ其影響ニ據テ別アリ其是等ノ國ナリテ歐洲ヨ

多夥多物品ヲ買フコトヲ得セシム。歐洲各國ナリテ其商人僱工
船主等ノ職ヲ得セシム。ナリ又印度支那等ニ綿糸茶葉
ノ類多量ニ輸入スルコトヲ得セシム。斯ノ如クシテ一時
廢止トシテ世界中ノ職業ヲ振起シ又効手トシテ新地移住
ノ思念ヲ熾ンテラレタリ其後移住ノ増殖スルニ從テ初メ金
礦ニ從事シタル者ニ漸々耕種ニ轉業シ今日ニ至テハカリフォルニア
州ハ世界中立タル穀物輸出ノ中ニ當スルニ至レリ其一金價
ノ下落ナリ世界中人口次オニ蕃殖シ資産次オニ増加スルニ從テ
從來通用ノ金貨ノニテハ十分ナラズヨリ金價次オニ騰貴ス
ルニ至リシ時シモ丁度カリタルニア及オーストラリアニ金礦
ヲ直テ其騰貴ヲ抑止シタルノミナラス更ニ從前ヨリ一層下落
セシメテ而シテ之ガ爲ニ金銀ノ貸借上ニ一大變革ヲ惹起セリ
今銀リニ其下落ヲ四分一トスルニ凡テ從前契約シタル負債ハ四

分一、減却レ我ノ國債ノ如キニ千々ノ拂高二千八百萬磅ナ
 リト雖モ其費三十年前ノ三千百萬磅ニ過キテ故ニ金價ノ下
 落ニ因テ萬國ノ公債ハ實際ニ減シテ從來ノ租稅發行
 ノ減ナレ各種ノ借主ハ大ニ其責ヲ免レタリ只定額ノ條約ニ
 賴ル者ト債主トハ之カ爲ニ損失ヲ受ケト雖モ然レモ猶モ納稅
 ノ一點ヨリ論ズレバ幾分カ利益ヲ得ルナリ是ヲ以テ人民ノ財
 富年々増殖シ今日ニ至テハ未曾有ノ重稅ヲ負ケト雖モ聊モ困
 難ノ状態ヲ免ズ然レモ是等ノ金價ノ勢力ヲ復シ前日ノ
 如クナラズ其產出高ニ數年回増スヲ莫クシテ唯モ世回ノ需
 求ニ應ズルニ足ルニ而シテ其需要ヲ將來次才ニ増カスバ
 非ズナリ是レロイ、ロエリ、ニ向後繁昌ノ進歩ハ是迄ノ
 如クニ駁々タルカラスト云フ一服ナリ然レモ其需要額ナリ
 増加レバ必ず其供給後ヲ生スベケル所ノ如ク取越甚劣ナ
 先ノ無用ノ事ナリ